

☆☆浜通り医療生協☆☆ ☆☆大震災・津波被害・原発による被害☆☆ ☆☆応援ありがとうニュース☆☆

2011年-3月26日

浜通り医療生協 定例理事会開催



定例理事会の冒頭、死去が判明した6名の組合員に哀悼の意を表しました。

伊東理事長（右）から「職員が病院機能の維持に奮闘、待ち望まれた外来診療や介護事業所再開にこぎ着けた。理事、職員のがんばりで水とガソリンの確保もフル回転で行っている。また、医療福祉生協連、全日本民医連など全国からの支援医療生協の力を今こそ発揮したい。みなさんで医療生協の力を今こそ発揮したい。みなさんに復興に全力をあげたい。一層の協力をお願いしたい」とあいさつがありました。



もたくさん受けている。地域から期待されるも職員も疲れのピークと思うが、理事会として復興に全力をあげたい。一層の協力をお願いしたい」とあいさつがありました。

理事会では、病院を中心とした大震災以来の活動報告、各地域、特に大きな被害を出した四倉地区・豊間地区・永崎地区の悲惨な状況、避難所での生活実態、支部活動への人的な面も含めた大きな打撃、その後の原発事故による大量避難問題などの報告がありました。また、風評に惑わされない冷静な対応がとれるよう放射線被爆に関する基礎知識を学びました。

水の確保に全力。自治体等の支援も厚くいただいています



ひき続き、理事、職員の奮闘で浄水場へ農業用タンクを軽トラックに積み、フル回転しています。しかし、さまざまな会社が動き始める中、給水に時間がかかることがあります（左）。いわき市や県振興局の給水車が何度も来てくれています（右）。



また自衛隊の給水支援も受けました。節水に努めているものの、供給が追いつかないのが現状です。



急性期入院受け入れも

できる限り、急性期入院も受け入れています。在宅で具合をくずされた方、避難所で体調を悪くされた方などの入院を受けています。昨日25日夕刻だけでも2名の入院受け入れ。持ちうる力をすべて発揮しています。

（発行）浜通り医療生協 組織部（機関紙編集・広報担当）箱崎元一